

イチゴを受け取る三角中の生徒



地産地消の推進

5月24日、J A熊本うき園芸部会三角支部（中尾浩道支部長）が三角中学校を訪問し、イチゴ（172パック）とミニトマト（30ケース）を贈呈。贈られた食材は早速、町内の学校、保育園、幼稚園に配布され、その日の給食に出されました。三角中学校の栄養職員は、「150項目の残農薬検査で問題無しと認められ、安全で、しかもおいしいので安心して（給食に）使うことができます」と話しました。

また、6月2日にはJ A熊本うき松橋地区いちご部会女性部（いちご会）が、町内の各養護学校へ手作りイチゴジャムをプレゼントしました。

J A熊本うきが地産地消を推進するため、地元で採れた新鮮な食材を学校給食に取り入れてもらおうと始めたものです。

イチゴジャムを受け取る養護学校の生徒



秋の開花が楽しみだね



小学生がコスモスの苗植え

6月8日、小川町の砂川塘のコスモス街道と河江小学校校庭内花壇で、児童たちがコスモスの苗を植えました。「観光地などで花を見たら今日の体験を思い出し、花や自然などを大切にしてほしい」と福本憲穂教頭。市産業課の職員から植え付けの説明を聞いた後、児童たちは慣れた手つきで楽しそうに苗を植えました。9月下旬には満開になるそうです。

第15回くまもと環境賞表彰式

このほど小川町川尻の「Eco シティ研究会・どんぐりの木」（若城浩史代表）が受賞。6月8日、県庁で表彰式がありました。「どんぐりの木」は、ゴミからつくられた育苗ポットや堆肥でドングリを育て、植樹していく緑化活動を実施し、自然を大切にする心の育成や、温暖化を防止する森林づくりに取り組んでいます。

また、若城代表は昨年3月、バイオマス利用による地域づくりにおいて、内閣府から「生活達人」の認定を受け、宇城市を中心にさらに活動の輪を広げています。



表彰式で笑顔を見せる若城さん

白地にコスモスの花が印象的な空港直行バスです



コスモスライナー運行開始

6月6日、空港直行バス「コスモスライナー」の運行開始記念式典が市役所玄関前で開かれました。関係者や利用客など約30人が参加。阿曾田清市長が「今回、中九州観光バス様をお願いして運行を再開できることになった。皆さまぜひご利用ください」とあいさつ。コスモスライナーが市役所に到着すると、参加者たちが拍手で出迎え、上村富秋中九州観光バス社長と運転手に花束が贈られました。

子ども体験活動

小川町の4小学校の子どもたちを対象に、子どもらしい心づくりを目指して体験学習を行う、地域教育力活性化支援事業・自然学校「風の子」（松本和良代表）の平成18年度事業が始まりました。第1弾の活動として6月4日に豊野町の鏡ヶ池で行われたカヌーと魚釣り体験には、親子連れなど約40人が参加。小川町青年団などのスタッフとともに、水に濡れながら野外活動を楽しみました。事業に関するお問い合わせは小川分室（☎43-0004）まで。



パドルを手に、こぎ方を練習する子どもたち

「笑って元気」をテーマに行われた矢野さんの口演で会場は笑いの渦に



国際ソロプチミストまつばセチャリティーディナーショー

6月9日に松橋ホワイトパレスで行われ、200人以上が参加しました。今回のチャリティー益金による車いす2台が市に寄贈された後、佐伯市の観光大使・矢野大和さんが男女共生について講演しました。なお、19日には社会福祉法人「まつの木作業所」に寄付金が贈られました。

国際ソロプチミストは、世界125カ国、約9万人の会員が『女性のために変化をもたらす』奉仕活動を行っています。